

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C	令和6年2月29日
横断的な課題	地域の特色を活かした山岳観光地域づくりの推進					
地域重点政策	1 農業、林業、製造業などの稼ぐ力を高める				北アルプス地域振興局	

実施機関	北アルプス地域振興局	担当課	所属	林務課
事業名	広葉樹林業のビジネス化事業		電話	0261-23-6522
			E-mail	kitachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等	目的 (目指す姿)	地域産業の発展と森林整備の推進に向けた「広葉樹林業のビジネス化」の促進 地域内に共存しながら、これまでつながっていなかった、森林整備する側と木を使う側をつなげ、地消地産につなげるとともに、新たなビジネスモデルを構築していく(地域材利用木匠0人→4人)
	現状と課題	管内民有林の67%を占める主要な資源である広葉樹を活用した林業活動の活性化は、地域産業の健全な発展と森林整備の推進に寄与することが期待される一方、管内には広葉樹を活用したビジネスモデルが少ない。令和3年度のフォーラムをきっかけに、地域の木工作家が地域の広葉樹を活用する機運が高まり、令和4年度には実際に製品として使えるか、木材の乾燥実証試験を開始した。この流れをさら拡大し、広葉樹の活用をより推進していくために、丸太を生産する側と使う側とを繋ぐ人材を育成するとともに、地域住民へ広葉樹資源の魅力を伝達していくことが必要である。
	内容 (変更後の内容)	◆北アルプス広葉樹活用フォーラムの開催 丸太を売る側と使う側とを繋ぐ人材を育成するために、研修会や先進地視察とあわせて、地域課題の認識と解決方法を探る広葉樹活用フォーラムを開催する。<9月:フレンドプラザ>開催内容は広葉樹円卓会議(丸太を売る側、使う側で連携した会議)内で決定 ◆製材マルシェの開催 木工体験や木工製品の販売を行うことにより、広葉樹資源の地消地産を進めるきっかけとする。<12月:北アルプス森林組合>製材見学、木工体験、木工家による木工製品の販売を予定 ◆北アルプス広葉樹製品化モデル事業 地域材の高付加価値化を目指すため、広葉樹板材を乾燥し、製品化を行う。地域の木工作家に令和4年度製材マルシェで製材し乾燥した材から製品を作ってもらい、地域の木材でも使えるかを検証してもらう(乾燥仕上がりは12月、製品製造は3月を予定)。
	事業期間	令和5年4月 ~ 令和6年2月

事業費等	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	北アルプス広葉樹活用フォーラム事前円卓会議	報償費(講師謝金)1名	44,800	
	北アルプス広葉樹活用フォーラム	報償費(講師謝金)3名	134,400	
	製材マルシェ	需用費(広葉樹製材用原木等) 役務費(製材費) 需用費(チラシ印刷費)	102,542	
	製品化モデル	需用費(人工乾燥用燃料・洗浄剤) 使用料及び賃借料(土地借上げ料)	118,723	
合計			400,465	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	広葉樹活用フォーラム参加者の満足度(5段階中4以上)	70%	74%	○ 達成
	研修会参加者数	延べ50人	延べ61人	● 一部達成
	広葉樹活用フォーラム参加者数	80人	75人	○ 未達成
北アルプス広葉樹モデル製品製作者数	4者	4者		

事業実績・成果	◆北アルプス広葉樹活用フォーラムの開催 ○実績:令和5年9月21日(木) 10:00~11:30 現地研修会 参加者40人、13:30~17:00 フォーラム75人 ○成果:毎年度参加している方に加え今年からの新たな参加者も居り、より多くの方に広葉樹に興味を持っていただく機会となった。またアンケート満足度も目標値を超えたことから、開催内容についても参加者の要望を満たすものであったと推察される。ただ参加者数は目標にわずかに達しなかった。 ◆製材マルシェの開催 ○実績:令和5年12月3日(日) ○成果:地域の製材所について、またどこへ行けば地域の材が買えるかを知っていただくため開催し、製材実演、木工体験、製品の販売等を行った。222名の来場者があり、地域材及び製材のPRのよい機会になったとともに木工体験の楽しさを感じてもらえた。 ◆北アルプス広葉樹製品化モデル事業 ○実績:製品製作数4品 ○成果:乾燥(天然、人工、ビニールハウス)試験を終えた板等を加工してもらい、製品を製作してもらった。乾燥方法による製品の仕上がりの違いについては、令和6年度に検証を行っていく。
---------	--

今後の方向性	研修会等を引き続き開催し、広葉樹の活用を担う人材を育成していく。また、モデル事業で製作した製品の品質の経過を観察し、乾燥方法による製品の課題等について検証を引き続き行っていく。なお、フォーラムの開催内容等については、広葉樹円卓会議から発展させた地域の団体が担っていられるよう支援を行っていく。
--------	--